

まつぼっくり



宇城市立三角小学校
学校だより 第43号
文責 校長 西村羊治
令和7年10月10日

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」



三角小学校の宝である子どもと職員

令和7年度 前期終了！

4月8日(火)の就任式・始業式から始まった前期は本日で終了です。授業日数は、99日(1年生は98日)、本校の6年生から1年生まで、「命」を守り「成長」し、充実した半年となりました。あいさつが自分から先に行えるようになった。授業に意欲的に取り組み発表の回数も増えた。タブレットの操作が上達した。給食を残さないようになった。そうじを協力してできるようになった。本をたくさん読んだ。けんかが減った。人が傷つくような言葉を言わなくなった。困っている人に寄り添うことができるようになった。等々、三角小学校の子ども達は、いろいろなことでたくさん「成長」しました。

また、逆にまだ「成長」しなければならないこともあります。トイレのスリッパを次の人のことを考えてきちんとしなければならない人がいる。服装が乱れてしまう人がいる。あいさつが苦手な人がいる。家庭学習が短い人がいる。家庭でスマホをさわる時間が長すぎる人がいる。授業中の姿勢が悪い人がいる。登校班がバラバラになっていることがある。等々、さらに「成長」して欲しいこともあります。

ただ、日々の各クラスの授業を見ていて、子ども達のやる気や笑顔、集中力、好奇心等が高まり、校長として嬉しい場面を見せてくれることが、すべての学年にあります。頑張っている子ども、愛情を持ち努力している職員、学校運営を理解して見守ってくださる保護者の方々、陰で支えてくださる地域の方々、いろいろな面でバックアップしてくださる宇城市教育委員会などの方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。今、三角小学校で校長をさせていただいていることを、とてもありがたく嬉しく、楽しく感じております。それはやはり子ども達・職員・保護者・地域・行政との関係など、人との良いつながりがあるからです。心理学のピグマリオン効果で、相手のことを嫌だと思ったり、好きだと思ったりした場合、言葉で言わなくとも雰囲気その気持ちは伝わります。三角小に関わるすべての人が、周りにいるすべての人への嫌悪感を捨て、相手の立場に立ち愛情を持って関わっていけば、その関係性はさらに良くなり、皆が気持ちの良い学校生活を送ることができると思います。10月16日(木)から始まる後期も、みんなが気持ちよく登校できる三角小をつくっていきましょう。